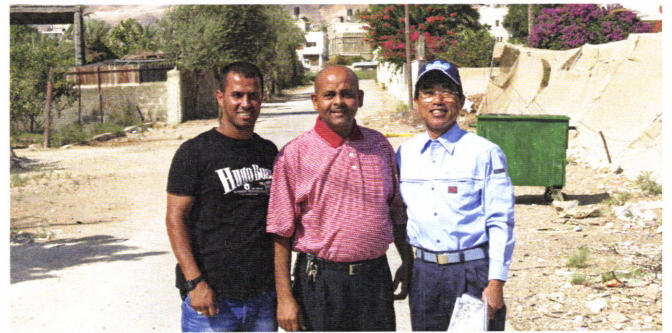


エリコにずっといました。と言っても、どこか場末の Snackbar に入り浸っていたわけではありません。パレスチナです。英語読みのジェリコもしくはイェリコという表現を使うこともあります。紀元前8000年ごろに人類史上最初に発生し、すなわち今から10,000年前にできた世界で最も古く、海面下250mと世界で最も低いところにある都市です。地図で見るとあの死海の北の端からわずか数キロのところにあります。

私はこの下水道整備の仕事に行っていました。この街には、はるか昔から都市の出現を可能にした泉があり、おいしい水が今でもこんこんと流れており、飲料水の確保は心配がありません。農業用水の一部はこの泉の水、残りは井戸水を使っています。しかし下水道がまだ整備されていません。家庭から発生する汚水は各戸に設置した腐敗槽で処理されていますが、ちゃんと維持管理できていないところも珍しくなく、汚水が地下に浸透し、井戸水の汚染が深刻になってきました。そうしたことから現在日本の無償資金協力で下水処理場が建設中で、今年(2014年)運転を開始する予定です。それに合わせて、各戸接続を促進するとともにエリコ市役所内に下水道事業を運営する体制を確立するためにJICAの技術協力プロジェクトが実施され、私が今勤めている会社が、あるコンサルタント会社と組んで受注しています。

日本で得られる情報では、パレスチナではみんなが不自由な生活を強いられているかのように思っていました。ところがジェリコと逗留していたラマッラー(パレスチナ自治政府の首都)では豊かな暮らしが繰り広げられていました。この2都市がパレスチナの中でも最も安心して滞在できる、例外的なところだったかもしれませんし、イスラエルの存在はいやでも認識せざるを得ません。それでも下水管渠の各戸接続検討のためエリコで1000軒以上の家屋を調査し、多くのお宅の敷地の中に入れていただいた印象からすると、日本の大都市の平均よりはるかに恵まれた家が目立ちました。もちろん貧富の差は確かにあるし、難民キャンプも広がっています。それでも自分が持っていたイメージとはかなり異なっていました。



2000年以上前にキリストが修業した地でもあり、もともとキリスト教徒の街だったところへ後からイスラム教徒が多く移り住んできたという背景から、モスクと教会が隣り合って存在している地でもあります。救急車の車体には赤新月と赤十字が組み合わさったマークも。



おかげでアルコールの入手には苦労しませんでした。ラマッラーに隣接したタイベいの街は80%以上がクリスチャンで、この地名を冠したビールは東京のパレスチナ料理店でも出されているようです。日中の気温がぐん上がり、夜はぐっと冷えるという気候ですからおいしいブドウが収穫されます。当然おいしいワインがリーズナブルな価格で買えました。

今回はあまりにも予備知識なしで行って見逃したことも多かったなと思っています。もう一度行く機会があるので、次回はもっといろいろな角度から体験しようと考えています。

## 花ほど人の心を癒すものがあるだろうか? —野草花の不思議—

何故、花は人々の心を和ませてくれるのだろうか?花は植物が繁殖するには絶対不可欠なものであることは誰でも知っている。従って、繁殖の媒体となる昆虫を引き付けるために工夫されたものであることは理解できるのだが、我々人間に魅力を感じさせる必要性はあまり無いように思える。私にはとっっても不思議なことで未だ謎のままである。

この不思議な魅力で人間を引き付ける花について、何回かのシリーズで記載する予定である。

一回目はメキシコを代表する花を楽しんで頂きたい。

皆さんが予想している常夏のようなメキシコの原産といわれている花にダリアがある。又日本の路上や庭に可憐に咲いているひ弱なコスモスもメキシコの原産と聞いて驚かないだろうか? 誰の手も借りることなくコスモスは道端に自生している。

日本でダリアは庭に観賞用として植えられるが、メキシコでは雑草の生い茂る林にごく普通に咲いている。右の写真は春に咲く桜のような花であるがスイカズラ科に属するアマバ(地方名)と呼ばれ、桜とは全く異なる種である。学名はビグノニア ペンタフィジャ(Bignonia

pentaphylla)と称する。ちなみに桜はバラ科である。

メキシコは、年間を通して日本のような四季はみられないが、この花は桜のように一定の寿命がある。正しく花の命は短くて…である。



野生のダリア

3月に咲き日本の桜と見間違えうアマバ